

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学 校 目 標】	「寄り添い」「粘り強い」教育を実践し、生徒の夢をサポートする。
【育みたい力】	1 自分の中にある力に気づき、伸ばすとともに、一つのことを最後までやり抜く心を育む。 2 多様な個性をもつ生徒が、互いに尊重し合う心を育む。 3 キャリア教育やボランティア活動を通して、健全な社会観や職業観を育む。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と「授業改善」 (1) 基礎学力の定着 ア 1年次、国数英はモジュール授業（毎日30分授業）を行うことにより基礎学力の定着を図る。 イ 4つの系列（マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、クロスカルチャー）の内容の充実を図る。 ※ (生徒)学校教育自己診断「モジュール授業に関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 86.5%, R5 81.9%, R6 88.5%) ※ (生徒)学校教育自己診断「系列に関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 79.9%, R5 80.6%, R6 88.6%) (2) 学習活動の充実 ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、自ら学び考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。 イ 各授業でICT機器を活用し、すべての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む。 ※ 授業アンケート「授業展開」の平均を令和9年度には3.50以上に。(R4 3.33, R5 3.35, R6 3.45) ※ 授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均を令和9年度にはそれぞれ3.45以上に。(R4 3.22 3.24, R5 3.19 3.25, R6 3.40 3.38) ※ (生徒)学校教育自己診断「視聴覚機器活用の項目」の肯定的評価を令和9年度には85%以上に。(R4 72.1%, R5 74.2%, R6 80.4%) ※ (生徒)学校教育自己診断「1人1台端末活用の項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 42.1%, R5 58.5%, R6 85.3%)
2 「課題発見解決能力」「コミュニケーション能力」「社会で生き抜き社会をよくする力」の育成 (授業の中でこれらの力を育むのは当然として、授業以外での取組みを(1)～(3)に記載) (1) 特別活動の充実 ア 体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事の充実を図る。 イ 部活動・同好会の活性化を図る。 ※ 体育祭、文化祭、山海人プロジェクトの事後アンケートの参加生徒の肯定的評価90%以上を維持。(R6 95.7% 95.4% 96.8%) ※ 部活動・同好会の加入率（加入延べ人数／在籍数、9月時点）を令和9年度には50%以上に。(新規) (2) 寄り添う生徒指導と人権教育の推進 ア 個々の生徒の状況に応じた「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を実践する。 イ 違いを認め、思いやりの心を育む人権教育を実践する。 ※ (生徒)学校教育自己診断「きまりがあって厳しいけれど、自分のためになっている」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 66.5%, R5 70.1%, R6 78.2%) ※ (保護者)学校教育自己診断「子どものまちがった行動を適切に指導してくれる」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 73.7%, R5 77.3%, R6 70.4%) ※ (生徒)学校教育自己診断「ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」の肯定的評価を令和9年度には85%以上に。(R4 73.6%, R5 74.6%, R6 84.7%) (3) キャリア教育の充実 ア 進路HRやインターンシップ等を通じて、生徒が進路について主体的に考えるように働きかける。 イ 第一希望の進路実現に向けて指導・支援する。 ※ (生徒)学校教育自己診断「進路についての学習をしっかりと行っている」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 76.6%, R5 78.1%, R6 89.8%) ※ 系統的なキャリア教育により、進学・就職を希望する生徒に対して進路決定者を令和9年度には90%以上に。(新規)
3 「支援教育」と「生徒相談」の充実 (1) 生徒の支援・相談体制の充実 ア 高校生活支援カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無に関わらず困り感のある生徒の支援を行う。 ※ 支援教育・生徒相談に関する定例会議を年間25回以上行い、必要に応じて、特別支援を検討する会議を行う。(新規) (2) 通級指導教室の充実 ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。 ※ 通級指導アンケート「通級指導を受けた感想」の肯定的評価90%以上を維持(R6 100%) (3) 少人数クラスの充実 ア 様々な体験を通してコミュニケーション能力を高め、2年次以降の高校生活につなげられるようにする。 ※ 少人数クラスアンケート「少人数クラスを希望したことについて」の肯定的評価を生徒・保護者ともそれぞれ令和9年度には90%以上に。(新規) (4) 生徒相談の充実 ア 専門人材と連携した生徒相談の充実と環境整備により、安全で安心な学校づくりをめざす。 ※ (生徒)学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価を令和9年度には75%以上に。(新規) (5) 不登校や中途転退学の防止 ア 2人担任、1年次25人学級、中退防止会議等により、困り感のある生徒を早期発見し全教職員が共有することで、不登校や中途転退学者を減少させる。 ※ 中途転退学率を令和9年度には8%以下に。(R4 10.2%, R5 16.1%, R6 5.5%)
4 「地域連携」の充実と「広報活動」の推進 (1) 地域連携の充実 ア 4つの系列・各教科・総合的な探究の時間などの授業において、地域と連携した授業を行う。 イ 地域活動等の希望者参加型行事の充実を図る。 ※ (生徒)学校教育自己診断「地域連携を活用した体験的な取組みに関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R6 88.7%) ※ 地域連携コーディネーターと教職員が連携し、地域資源の活用や地域と連携した授業を開発する。 ※ 地域から依頼を受けた行事に生徒会、部活動、有志が参加し地域貢献する。 ※ 希望者参加型行事の事後アンケートの肯定的評価の平均95%を維持。(R6 100%) (2) 広報活動の推進 ア 校内、校外において行われる学校説明会および学校ホームページ「enjoy 岬」において学校の取組みを発信する。 ※ 校内でオープンスクール、支援教育に関する学校説明会を行い、校外の学校説明会に積極的に参加し岬高校の取組みを広く紹介する。 ※ 学校ホームページ「enjoy 岬」の記事掲載70回以上を維持する。(R4 39回, R5 52回, R6 82回)
5 「人材育成」と「働き方改革」 (1) 教職員の組織的・継続的な人材育成 ア 教職員全体の資質向上のため、外部講師による講演や校内研修会を行い、初任者に対しては管理職やミドルリーダーを講師とした校内初任者研修を実施する。 ※ (教員)学校教育自己診断「校内研修は役立つような内容になっている」の肯定的評価85%以上を維持。(R4 71.4%, R5 85.7%, R6 90.9%) (2) 働き方改革の推進 ア 業務を見直し、会議や情報共有の効率化を図ることで教職員の働き方改革を進める。 イ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革を進める。 ※ 月当たり、教職員の「時間外在校等時間」の平均を令和9年度には20時間以下に。(R4 29.0時間 R5 28.1時間 R6 23.9時間) ※ 月当たり、「時間外在校等時間」45時間以上の教職員を令和9年度には4人以内に。(R4 22.0人 R5 7.7人 R6 4.1人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成と「授業改善」	(1) 基礎学力の定着 ア モジュール授業による基礎学力の定着	(1) 基礎学力の定着 ア 1年次、国数英はモジュール授業（毎日30分授業）を行うことにより基礎学力の定着を図る。	(1) 基礎学力の定着 ア ・(生徒)学校教育自己診断「モジュール授業に関する項目」の肯定的評価を89%以上。[88.5%]	
	イ 4つの系列の内容の充実	イ 地域連携コーディネーターと連携し、地域資源や地域人材を活用した系列授業を継続・開発し内容の充実を図る。	イ ・(生徒)学校教育自己診断「系列に関する項目」の肯定的評価を89%以上。[88.6%]	
	(2) 学習活動の充実 ア 「わかる」「楽しい」授業展開	(2) 学習活動の充実 ア 全教員が、以下の5項目を念頭に授業を進める。 ①開始時は学習環境を整え、学習目標を明示する ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業展開 ④「考える」「説明を聞く」「板書する」を明確に ⑤具体的にほめる	(2) 学習活動の充実 ア ・授業アンケート「授業展開」の平均を3.46以上。[3.45] ・授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均をそれぞれ3.40以上。[3.40 3.38]	
	イ ICT機器の活用	イ 視聴覚機器や1人1台端末を活用し、すべての生徒がわかりやすい授業づくりに取組む	イ ・(生徒)学校教育自己診断「視聴覚機器活用の項目」の肯定的評価を82%以上。[80.4%] ・(生徒)学校教育自己診断「1人1台端末活用の項目」の肯定的評価を87%以上。[85.3%]	
2 「課題発見能力」「コミュニケーション能力」「社会生活能力」の育成	(1) 特別活動の充実 ア 全員参加型行事の充実	(1) 特別活動の充実 ア 様々な行事の企画運営に生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心をもって取り組めるよう工夫する。	(1) 特別活動の充実 ア ・体育祭、文化祭、山海人プロジェクトの事後アンケートの参加生徒の肯定的評価90%以上を維持。 [95.7% 95.4% 96.8%]	
	イ 部活動・同好会の活性化	イ 勧誘ポスターを掲示する。1年生に対し4月のHR等で部活動紹介動画を見せ、加入を促す。	イ ・部活動・同好会の加入率（加入延べ人数／在籍数、9月時点）を45%以上。[新規]	
	(2) 生徒指導と人権教育 ア 寄り添う生徒指導	(2) 生徒指導と人権教育 ア 個々の生徒の状況に応じた「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を実践する。	(2) 生徒指導と人権教育 ア ・(生徒)学校教育自己診断「きまりがあって厳しいけれど、自分のためになっている」の肯定的評価70%以上を維持。[78.2%] ・(保護者)学校教育自己診断「子どものまちがった行動を適切に指導してくれる」の肯定的評価70%以上を維持。[70.4%]	
	イ 人権教育の推進	イ 人権について学び、考える機会を設け、違いを認め、思いやりの心を育む人権教育を実践する。	イ ・(生徒)学校教育自己診断「ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」の肯定的評価を85%以上。[84.7%]	
	(3) キャリア教育の充実 ア 進路意識をもたせる	(3) キャリア教育の充実 ア 進路HRやインターンシップ等を通じて、生徒が進路について主体的に考えるように働きかける。	(3) キャリア教育の充実 ア ・(生徒)学校教育自己診断「進路についての学習をしっかり行っている」の肯定的評価を90%以上。[89.8%]	
	イ 進路実現	イ 第一希望の進路実現に向けて面接練習や職場見学等の指導・支援を行う。	イ ・進学・就職を希望する生徒に対して進路決定者を90%以上。[新規]	

府立岬高等学校

3 「支援教育」と「生徒相談」の充実	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア 困り感のある生徒の支援	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア 高校生活支援カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無に関わらず困り感のある生徒の支援を行う。	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア ・支援教育・生徒相談に関する定例会議を年間 20 回以上行い、必要に応じて、特別支援を検討する会議を行う。[新規]	
	（２）通級指導教室の充実 ア 自尊感情の育成	（２）通級指導教室の充実 ア 先駆的な取り組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。	（２）通級指導教室の充実 ア ・通級指導アンケート「通級指導を受けた感想」の肯定的評価 90%以上を維持[100%]	
	（３）少人数クラスの充実 ア ２年次以降の高校生活へのつなぎ	（３）少人数クラスの充実 ア 様々な体験を通してコミュニケーション能力を高め、２年次以降の高校生活につなげられるようにする。	（３）少人数クラスの充実 ア ・少人数クラスアンケート「少人数クラスを希望したことについて」の肯定的評価を生徒・保護者ともそれぞれ 90%以上。[新規]	
	（４）生徒相談の充実 ア 安全で安心な学校づくり	（４）生徒相談の充実 ア 専門人材と連携した生徒相談の充実と環境整備により、安全で安心な学校づくりをめざす。	（４）生徒相談の充実 ア ・(生徒)学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的評価を 70%以上。[新規]	
	（５）不登校や中途転退学の防止 ア 不登校や中途転退学者の減少	ア ２人担任、１年次 25 人学級、中退防止会議等により、困り感のある生徒を早期発見し全教職員が共有することで、不登校や中途転退学者を減少させる。	ア ・中途転退学率 10%以下。[5. 5%]	
4 「地域連携」の充実と「広報活動」の推進	（１）地域連携の充実 ア 地域と連携した授業づくり	ア ４つの系列・各教科・総合的な探究の時間などの授業において、地域と連携した授業を行う。	ア ・(生徒)学校教育自己診断「地域連携を活用した体験的な取り組みに関する項目」の肯定的評価を 85%以上を維持。[88. 7%]	
	イ 地域活動等の希望者参加型行事の充実 （２）広報活動の推進 ア 岬高校の取り組み発信	イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する。 （２）広報活動の推進 ア 校内、校外において行われる学校説明会および学校ホームページ「enjoy 岬」において学校の取り組みを発信する。	イ ・希望者参加型行事の事後アンケートの肯定的評価の平均 95%を維持。[100%] （２）広報活動の推進 ア ・学校ホームページ「enjoy 岬」の記事掲載 70 回以上を維持。[82 回]	
5 「人材育成」と「働き方改革」	（１）組織的・継続的な人材育成 ア 校内研修の充実	（１）組織的・継続的な人材育成 ア 教職員全体の資質向上のため、外部講師による講演や校内研修会を行い、初任者に対しては管理職やミドルリーダーを講師とした校内初任者研修を実施する。	（１）組織的・継続的な人材育成 ア ・(教員)学校教育自己診断「校内研修は役立つような内容になっている」の肯定的評価 85%以上を維持。[90. 9%]	
	（２）働き方改革の推進 ア 業務の見直し等	（２）働き方改革の推進 ア 各分掌や学年で業務を見直すとともに、会議や情報共有の効率化を図ることで教職員の働き方改革を進める。	（２）働き方改革の推進 ア ・月当たり、教職員の「時間外在校等時間」の平均を 25 時間以下。[23. 9 時間]	
	イ 全校一斉定時退庁日の徹底	イ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革を進める。	イ ・月当たり、「時間外在校等時間」45 時間以上の教職員を 6 人以内。[4. 1 人]	